



最後の一枚の葉 (21)

「もう、ワインは買わなくていいわ」目は窓の外に向けたまま、ジョンジーは言いました。「ほらまた一枚。ええ、もう、スープもないの。残りの葉はたったの四枚。暗くなる前に最後の一枚が散るのを見たいな。そして私もさよならね」

「ジョンジー、ねえ」スーはジョンジーの上にかがみ込んで言いま



## 最後の一枚の葉 (22)

した。お願いだから目を閉じて、私の仕事が終わるまで窓の外を見ないって約束してくれない？この絵は、明日までに出さなきゃいけないのよ。描くのに明かりがいの。でなきゃ日よけを降ろしてしまっただけど」

「他の部屋では描けないの？」とジョンジーは冷たく尋ねました。「あなたのそばにいたいなのよ」と



最後の一枚の葉 (23)

原題：The Last Leaf

スーは答えました。「それに、あんなつたの葉っぱなんか見てほしくないの」

「終わったらすぐに教えてね」と  
ジョンジーは言い、目を閉じ、倒れた像のように白い顔をしてじっと横になりました。「最後の一枚が散るのを見たいの。もう待つのは疲れたし。考えるのにも疲れたし。自分がぎゅっと握り締めてい



## 最後の一枚の葉 (24)

たものすべてを放したいの。そしてひらひらひらっと思きたいのよ。あの哀れで、疲れた木の葉みたいに」

「もうおやすみなさい」とスーは言いました。「ベーアマンさんのところまで行って、年老いた穴倉の隠遁者のモデルをしてもらわなくっちゃいけないの。すぐに戻ってくるわ。戻ってくるまで動いち



## 最後の一枚の葉 (25)

やだめよ」

ベーアマン老人はスーたちの下の一階に住んでいる画家でした。六十は越していて、ミケランジェロのモーセのあごひげが、カールしつつ森の神サチュロスの頭から小鬼の体へ垂れ下がっているという風情です。

つづく

